

## 【「榎尾川ダム建設事業」等に関する有識者会議 議事要旨】

【日 時】 平成 21 年 12 月 25 日（金）午後 4 時 30 分～6 時 00 分  
午後 6 時 30 分～7 時 30 分（意見交換）

【場 所】 大阪府特別会議室 大会議室

【出席者】 （大阪府）橋下 徹（大阪府知事）、小河 保之（大阪府副知事）  
上山 信一（大阪府特別顧問）  
（有識者）今本 博健（京都大学名誉教授）、金盛 弥（元淀川水系流域委員会委員）、竹村 公太郎（首都大学東京客員教授）、宮本 博司（元淀川水系流域委員会委員長）、滋賀県庁  
（説明者）都市整備部

### 【議 題】

「大阪府の治水対策の現状」 「大津川水系の治水対策」  
「榎尾川ダム事業について ～概要と代替手段の可能性～」  
「計画目標の見直しの可能性について」（意見交換）

### 【主な発言内容】

[有識者等の発言]

《榎尾川ダム事業について》

- 榎尾川ダムは、雨の降り方を過大にみるなどダムが必要になる計画に見える。その上、ダム直下の区域を除いて効果は限定的で、堆積土砂による阻害と同程度あるいはそれ以下。上流部 1.6km は堆積土砂の除去など今の河道をきちんと管理することが重要。
- 大阪は元来、流域に資産が集中しており、治水上脆弱なところ。ダムはすでに着工しているため、代替案では現実的に住民の理解を得られるかどうか。代替案を検討するような事態ではない。
- 自然は必ず計画を超えるもの。河川は水位を下げるのが原則。その水位を下げる最適な組み合わせが榎尾川では「ダム＋河川改修」。ある計画に向けて税金を投入することが行政の責任。
- 住民の生命を守ることが知事の最大の目的。優先すべきは、低い住宅に対する被害想定周知などの避難体制の整備、堆積土砂や流木の除去。榎尾川ダムの場合、緊急対策として暫定のパラペットによるかさ上げなどの代替案でもよいのでは。

《計画目標の見直しの可能性について》

- 100 ヶ以上の雨が現実降っている。1/100 か 50 ヶかの議論はナンセンス。様々な雨が降ったときに被害がどういう状態になるのかということを見て、優先順位を付けていくという議論をすべき。限られた予算の中で何をすべきか。計画はあって、着々とやっているから責任は逃れますということでは駄目。
- 大阪府は、一つの平野であり、1/100 の目標でやってきた。計画目標を見直すと府内で格差が生じる。計画目標ではなく、進め方を議論すべき。
- 現在の流下能力を正確に把握し、超過洪水を念頭に入れつつ、実現可能な対策を実施すべき。
- 現在まで目標に向け進めてきたことは大きな成果。お金がない中、河川計画を個別に考えるなど、根本的に見直しても良い時期では。一方で、メンテナンスは大きな問題。

[知事の発言]

- 大阪は都市部。府民の命を守るのはもとより、加えて財産を守る対策が必要。
- ダムに頼らない治水について理想はよいが、現実を見て判断したい。河川ごとに危険度で判断して優先順位をつけていくことができないのか。
- マネジメントする立場とすれば、色々な選択肢を提示してもらいたい。榎尾については、パラペットや他の案が、もしあるのであれば提示すること。最後は政治判断。
- これはもう遅すぎたのですと、他の方法があったのかもしれないけど、遅すぎだから、ダムをやらざるを得ないという話は、かえって府民に納得してもらえない話かもしれない。色々な技術論などもしっかり説明はする。
- 行政のマネジメントの中で、1/100 は掲げている、いつになるかわからないというのは約束を果たしていないと思う。1/100 を全域で約束するより、ここというところに力を入れるというのが、これからの行政。